

対馬暖流はかなり蛇行して北上 対馬暖流の流量は平年の7割と少ない 今後沿岸水温は平年並になる模様

2020年11月下旬から12月上旬に実施した日本海定期観測の結果をお知らせします。

対馬暖流は、積丹半島沖の暖水渦、雄冬岬沖の冷水域を迂回するように流れており、かなり蛇行した流路となっています（図1c）。前回10月の観測では暖水渦は岩内湾に形成されていましたが、今回の観測からこの渦は北西方向に移動した模様です。対馬暖流の全流量は約0.9Sv（1Sv=10⁶m³/s）で、例年の7割程度となっています（12月流量の平年値は1.3Sv）。暖流の流量は8月から10月にかけて急増しましたが、現在は減少傾向にあります。

50m深水温は、広く10～11℃で暖水渦が形成されている積丹半島沖で約12℃となっています（図1a）。50m深水温偏差は、北緯43度以南の沿岸域を除く全ての海域で例年よりも1～3℃高くなっていますが、前回10月では例年よりも8～10℃高い海域がみられたことから、高水温化はかなり解消されました（図1b）。

余市前浜水温は12月上旬では「やや高い」でしたが（※1）、12月の気温は平年よりも低めで推移する予報となっていますので（※2）、沿岸水温は「平年並み」になることが予想されます。

※1 <https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyau/suion/index.html>

※2 気象庁HPより1ヶ月予報：<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>



余市前浜水温



気象庁1ヶ月予報

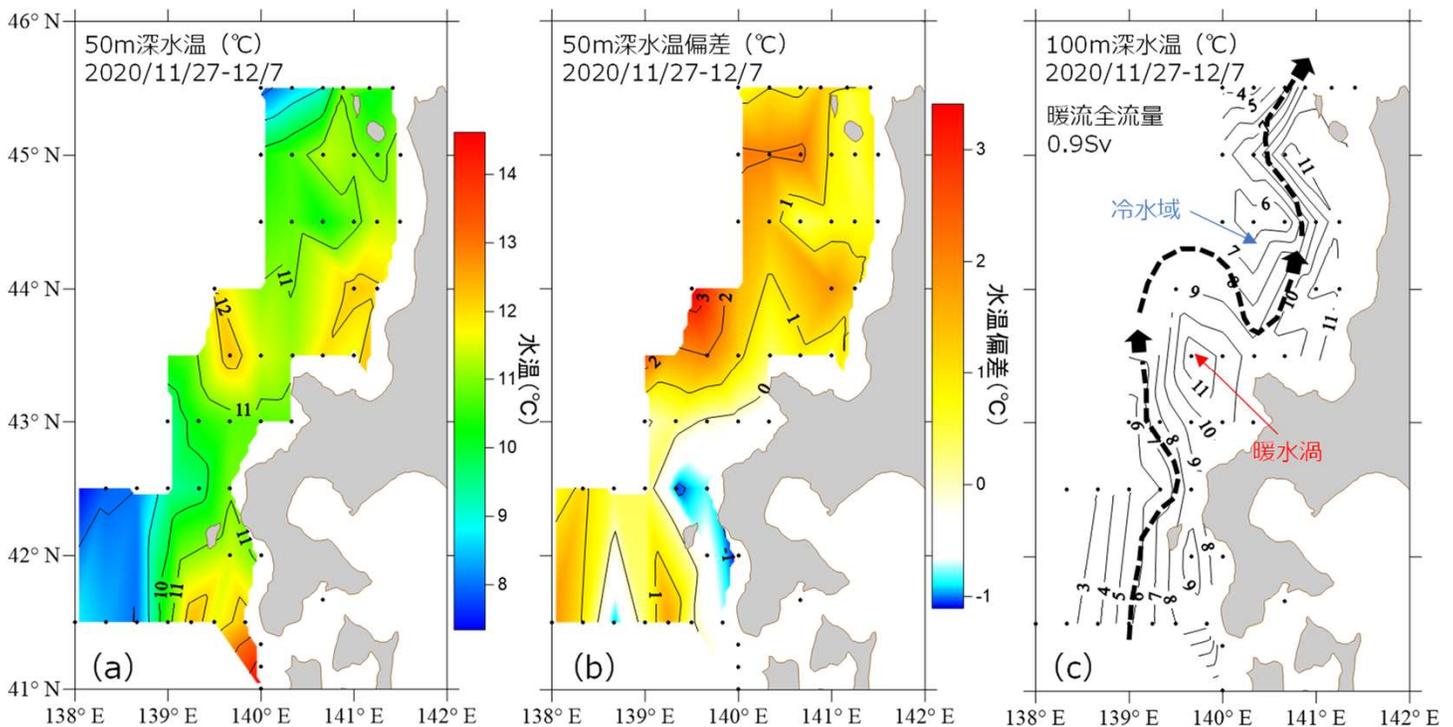


図1 2020年11月下旬から12月上旬における (a) 50m深水温 (b) 50m深水温偏差の水平分布、(c) 100m深水温の水平分布と対馬暖流の流路。水温偏差は過去30年（1989年～2018年）の平均値から算出。流量の単位はSv（=1×10⁶m³/s）。